

特集

待ったなしの高齢者対応

フレイル予防、糖尿病連携から終末期まで

REPORT!

黒澤俊夫

歯科医師会立の
歯科技工士養成校の
将来を拓こう!

小児の口腔機能訓練を高齢者に活用!

田中文治/THDC合同会社

2024年改定で、終末期に歯科ができること

森元主税

スウェーデンの訪問診療を日本で生かす

井上義郎/クロスフィールド(株)

医療連携、リスク回避を考慮した高齢者歯科医療

黒澤俊夫

特別
企画

イタリア・
デンタルショー&
クリニック探訪

釜崎亜希子/Infodent



特集

待ったなしの高齢者対応 フレイル予防、糖尿病連携から終末期まで

黒澤俊夫／森元主税／井上義郎／田中文治／THDC 合同会社／クロスフィールド(株)

51

特別企画

イタリア・デンタルショー&クリニック探訪

釜崎亜希子 84

レポート

歯科医院におけるリスクマネジメントの再考 歯科医師会立の歯科技工士養成校の将来を拓こう！

山田達郎 88

黒澤俊夫 92

GP 論

口腔から全身が見える！ 高齢者虐待

廣瀬知二 24

次世代に残したい 臨床アーカイブス 歯科における金属アレルギー症状

氏家賢明 36

Interview

院長インタビュー 三上晃一郎(東京都・医療法人社団千蘭会 千住大橋歯科)

12

他業界からのメッセージ 移動スーパー「とくし丸」

104

リレーエッセイ

あの先生のライフスタイル 白石一男(茨城県・白石歯科医院 院長)

04

経営

DHレッスン Akaneにお任せ！ 国際学会に行ってみよう！

竹之内 茜 18

キレイ！ 効率的！ クリニックの知恵 松林歯科(大阪府)

(株)デンタルタイアップ 20

しくじり院長が今日も行く！ 経営数値悪化の原因は？

根本章吾 28

チラ見せ・動画メディア「歯科ラジオ」 GPが小児・予防歯科に転身するまで

岨 卓与／山本達也 98

スタッフに教えたい経営の話 元チーフのせいで立て続けに退職？

濱田真理子 110

事務長のマネジメント講座 診療報酬改定を医院の成長に生かすには？

MOCAL(株) 114

無理しないお金講座 売上の計上時期で、正しい利益を把握しよう

安田会計事務所 116

スタッフがモノ申す！ 院長の○×対応 大きな組織の全体承認

菅野愛弓 118

ドクター重田の個別指導Q&A 保険算定と個別指導、考え方に違いは？

ドクター重田 126

エッセイ

身体がよるこぶ！ 還元クッキング しそジュースで残暑対策！

大友慶孝 34

BOOK STAND 132

ときめき旬ホテル 白井屋ホテル

保母美貴 44

GOODS BOX 136

DHアーヤの患者さんこんにちは！ 強迫症の患者さん

古屋綾子 120

ニュースボード 138

世の申いたしいのお 大変じゃが愛おしい、高齢の患者さん

GP 太郎 122

読者の声 156

高村くるみ流人生相談室 勤務先のHPに掲載されたくありません。ほか

高村くるみ 128

広告掲載一覧 157

サカモッチのサムシング お笑いファーストで行こう！ インハイにはないのか？

坂本光徳 129

バックナンバー 158

toothsome君が行く！ 歯と神仏の旅 京都七条界限

福田直子 130

編集後記 160

From Dental Dealer's Opinion 世界初！ 歯周病を「治療」できる機器

山本恵三 131

あの先生の ライフスタイル

一問一答



■白石歯科医院 院長 (茨城県)

スタディグループ：咬み合わせ医療会
主宰

診療スタイル：自宅の隣が診療室。長男と2人体制で診療を行い、次男が院内技工を担当。他に、歯科衛生士4人、歯科助手2人、受付2人。ユニット5台。

生年：1960年

出身地：茨城県

出身校：明海大学歯学部

『アポロニア21』での連載

- ・咬み合わせ臨床講座(1996年6月号～98年12月号)
- ・続・咬み合わせ臨床講座(1999年9月号～2000年8月号)
- ・矯正専門医でない歯科医の歯・並び臨床記録(2001年3月号～02年2月号)
- ・"大衆歯科"というアプローチ(2003年5月号～08年5月号)
- ・チームワーク・総義歯臨床(2009年5月号～10年10月号)

著書(いずれも日本歯科新聞社)

- ・咬み合わせ臨床講座：絶版
- ・(続)咬み合わせ臨床講座
- ・チームワーク・総義歯臨床：絶版
- ・歯科医師・歯科技工士のための総義歯臨床(YouTube連動版)

第
128
回

白石一男

Shiraishi Kazuo
先生

生活スタイル

平均睡眠時間は？

6～7時間。診療日は可能な限り昼寝をする。

一日の中で好きな時間は？

今日一日の仕事をやり終えてから、ゆっく

りと自宅の大風呂に浸かり、風呂上がりの一杯を飲む時。

欠かさない日課や習慣は？

起床したら、すぐに風呂に直行。全身を仕事モードに切り替える。

夜は仏前に座って、家内にあいさつと今日一日の報告をする。

そして10年日記の執筆。週末に留守にし

院長 Interview



「治療」発 「予防」行の 電車の歯医者さん

医療法人社団千蘭会 千住大橋歯科
東京都足立区

三上晃一郎氏

Mikami Koichiro

1980年生まれ。2007年、明海大学歯学部卒業。08年、同大学研修医修了。12年、同大学口腔生物再生医工学講座（歯周病科）卒業、歯学博士取得。同大学臨床助手を務める。都内にて勤務医を経験後、18年開業。24年、分院の「亀戸駅前キリン歯科」オープン。日本歯周病学会認定医。

スタッフ計：歯科医師7人（うち非常勤3人）、歯科衛生士8人、受付・助手11人

ユニット：5台（千住大橋）、4台（亀戸）

京成線千住大橋駅の高架下にあり、京成電鉄の駅名標を模した外観が特長の千住大橋歯科。「医院に関わる人全てのQOLを上げる」を理念に掲げる三上院長に、スタッフが働きやすい医院づくりや、地域の歯科医師同士の交流の構想などについて伺った。

鉄道の高架下で開業

——医院があるのは、改札正面から延びる高架下のアーケード。究極の駅チカですが、ここを開業場所を選んだ理由は。

三上 23区内ならどこでもよかったのですが、「駅チカ」を条件に探していたところ、たまたまここを紹介され、広さもちょうど良かったので決めました。

——診療中、電車の音や振動は気になりませんか。

三上 特に気にならないですね。スタッフから、そのような声は上がっていません。開業準備の際、メーカーの担当者に「マイクロが揺れるかも」と言われたのですが、大丈夫でした。電車の音に関しては、エンターテインメントだと思っています。

——駅名標を模した看板がインパクトがありますね。

三上 外観は、子どもが入りやすいことを念頭にデザインを考えました。保護者も、「電車の歯医者さんに行こう」といった声掛けが

特集

個人差が大きい高齢者対応は、現場の経験値が役立ちます。小児口腔育成のフレイル予防への応用、海外で得られた地域包括ケアのノウハウや、糖尿病での医科との連携、24年度改定を踏まえた終末期の歯科の役割など、現場で生まれた高齢者対応を紹介します。

待ったなしの 高齢者対応

フレイル予防、糖尿病連携から 終末期まで

高師ほんごう歯科クリニックの挑戦

小児の発達支援を高齢者のフレイル予防に生かす

話し手：田中文治（愛知県・高師ほんごう歯科クリニック 院長）

取材協力：堀尾麻衣（THDC 合同会社 代表取締役）、横山三純（同 副代表）、田中美有（同）

スウェーデンの高齢者施設訪問で考えた

地域包括ケア 日本に足りないものと世界に発信すべきもの

話し手：井上義郎（福島県・医療法人祥義会 理事長）

取材協力：クロスフィールド(株)

訪衛指の回数緩和で歯科の役割が拡大

終末期に歯科は何ができるか？

話し手：森元主税（東京都・森元歯科医院 院長）

医療連携、リスク回避を考慮した高齢者歯科医療

取材協力：黒澤俊夫（茨城県・黒澤歯科医院 院長）

高師ほんごう歯科クリニックの挑戦

小児の発達支援を 高齢者の フレイル予防に生かす



小児の発達支援プログラム「SHISEIアカデミー」のトレーニングを、高齢者のフレイル予防のためのアクティビティに！



この記事のポイント

機能獲得の順序をたどって
機能回復を促す

高齢者特有の「気持ち」に配慮して
フレイルを予防！



●取材・文：編集部

●話し手： 田中文治氏 (左から2番目) Tanaka Fumiharu
愛知県・高師ほんごう歯科クリニック 院長

●取材協力： 堀尾麻衣氏 (左端) Horio Mai
THDC 合同会社 代表取締役・保育士

横山三純氏 (右から2番目) Yokoyama Misumi
THDC 合同会社 副代表・理学療法士

田中美有氏 (右端) Tanaka Miyuu
THDC 合同会社・理学療法士



スウェーデンの高齢者施設訪問で考えた

地域包括ケア 日本に足りないものと 世界に発信すべきもの



この記事のポイント

 → 学びたい！
行動変容を含めた地域包括ケア

 → 学びたい！
外来診療と訪問診療との役割の明確化

 → 発信したい！
口腔機能へのアプローチと多職種連携

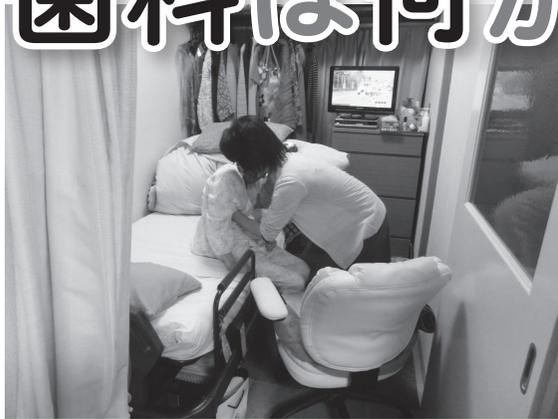


●話し手： 井上義郎氏
Inoue Yoshiro
福島県・医療法人祥義会 理事長

●取材協力： クロスフィールド(株)

訪衛指の回数緩和で歯科の役割が拡大

終末期に 歯科は何ができるか？



終末期ケアで食支援に関わった例。「時間がかかってもベッドから立ち上がって、テーブルで食べるようにする」「器を手に持って食べると姿勢が整う」など、本人と家族の生活そのものに深く関わった。亡くなる数日前まで食事ができたという。亡くなった直後、「入れ歯が入らない」と連絡をいただき、「最後のご奉公」をさせていただいた。

この記事のポイント

「背景」によってさまざまな終末期がある

「食べられなくなる」のが終末期のサイン

口腔内の潤いと脳血管への刺激を維持する
「三種の神器」



●話し手：

森元主税氏

Morimoto Chikara

東京都・森元歯科医院 院長

●取材・文：編集部

医療連携、 リスク回避を考慮した 高齢者歯科医療



この記事のポイント

歯周病の状態を
「K-Pスコア」で他職種と共有

「万が一」に備えるリスク回避を考えておく



●取材協力：

黒澤俊夫氏
Kurosawa Toshio
茨城県・
黒澤歯科医院 院長

●取材・文：編集部



イタリア・デンタルショー & クリニック探訪



5月16～18日、イタリアのアドリア海沿いのリミニで毎年開催されているリミニ国際デンタルショーに参加し、イタリアに本拠を置く国際歯科メディア「Infodent」と一緒に取材しました。コロナ禍によって課せられていたさまざまな制限が撤廃され、久しぶりにイタリアの歯科医院も訪問。その時の様子をレポートします。



●取材：
釜崎亜希子氏
Kamasaki Akiko

イタリア人を夫に持つ歯科衛生士。イタリアの歯科医院でも勤務経験がある。現在はフリーランスとして活動中。

●取材協力：
Infodent

●文：編集部



歯科医院における リスクマネジメントの

再考



「**医院経営のリスクマネジメント**」とは、どういったものでしょうか？ここでは、**安定した医院経営を続けるため、生命保険を活用するリスクマネジメントの戦略について、あらためて考えてみたいと思います。**



●話し手：

山田達郎氏

Yamada Tatsuro

ブルデンシャル生命保険(株)
首都圏第八支社

ファイナンシャル・プランナー (CFP)
2024年 MDRT Top of the table (TOT) 会員

●取材・文：編集部

「**リスクファイナンス**」とは

「**リスクマネジメント**」とは、危機回避、損失低減の手法で、リスクを組織的に管理(マネジメント)し、損失等の回避または低減を図るプロセスを指します(図1)。企業などの

価値を維持・向上させる上で障壁となるリスクと、それらの影響を正確に把握し、事前に対策を講じて危機発生を回避し、危機発生時は損失を極小化するための経営管理手法です。

では、歯科医院経営で必要なリスクマネジメントについて、開業時から時系列で考えてみましょう。

歯科医師会立の 歯科技工士養成校の 将来を拓こう！



現在、歯科技工士養成校の多くが経営難を抱えており、入学する学生も極めて少なくなっています。現役の歯科技工士は高齢化しており、早晚、大勢のリタイアが予測されます。

茨城県歯科医師会が運営する歯科技工士養成校を例に、問題の背景を考えます。



●取材協力：

黒澤俊夫氏
Kurosawa Toshio
茨城県・
黒澤歯科医院 院長

●取材・文：編集部

次号予告

特集

医院、人脈の承継

- 同窓会が医院売却のマッチングに乗り出した
- 学会主催で「人脈」を次世代につなぐ交流会
- 歯科医院はどうすれば「100年企業」になれる？

レポート

大歯大病院のクレーム対応の実践研修 (佐久間泰司)

工学的に見たう蝕のシステム (藤森宏高)

あの先生のライフスタイル

林直樹 (医療法人徳真会・歯科技工士／マイスターテクニシャン)

編集後記 先日、お向かいで長く飼われている雄猫「かっちゃん(かつお)」が認知症になったのではないかという話を聞きました。飼っている方によると、食事をしたのを忘れて、夜中もご飯をねだって鳴くので困っているのだとか。

「猫も認知症になるんだなあ」と、当たり前ながら驚かされましたが、かっちゃんが子どもの時から見ていたので、切ないものがあります。

かっちゃんは、私たちがボランティアなど公共性のある仕事から帰ってくると、不思議と正座(?)で迎えてくれます。逆に、単なる遊び目的の外出の帰りは冷たい態度のような気がします。それは、認知症になったといわれるようになった今でも全く変わりません。



1年ほど前に腎臓を悪くしたそうで、この暑さの中、体調を悪くしないか、飼い主だけでなく近所の人たち皆が心配しています。かっちゃん、どうか元気に長生きしてください。

さて、今回の特集は、人間の「高齢化」の話です。2024年改定で訪問診療での「連携」重視の方向性が示されたのを踏まえ、現場で生まれているさまざまなアイデアを紹介しました。

この中で、小児の口腔育成のプログラムを開発している多職種連携のグループが、高齢者のフレイル予防にノウハウを生かそうとしている取り組みを取材させていただきました。

取材中、フレイル予防の体操(56ページの2次元コードで動画を閲覧可能)を自分もやってみました。ところが全然うまくいかず、「すでに何かの機能低下？」とヤキモキしていたら、「若い人でも苦手な人はいますよ」と慰めていただきました(苦笑)。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。(水谷惟紗久)

アポロニア²¹

9月号

2024年9月1日発行
通巻369号

●発行人

水野純治

●編集長

水谷惟紗久

●発行

(株)日本歯科新聞社

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町2-15-2

[TEL] 03-3234-2475

[FAX] 03-3234-2477

http://www.dentalnews.co.jp

apolonia@dentalnews.co.jp

●印刷

三報社印刷(株)

※落丁、乱丁はお取り換えします。
掲載記事の無断転載を禁じます。

●月刊『アポロニア21』の定価は、1冊2,420円(本体2,200円+10%税)です。ご購入は年間29,040円の前納制にてお願い致します(税・送料込)。当社ホームページのお申し込みフォーム、FAX、Eメール、またはお出入りの歯科商店でお申し込みください。

●取材のお申し込み

当社ホームページのトップページにある「取材の依頼・情報提供はこちら」というボタンから、「取材依頼・記事掲載 応募フォーム」にご記入ください。

●広告のお問い合わせ・お申し込み

(株)マーケティング・

インターナショナル

〒160-0011

東京都新宿区若葉1-10

TEL : 03-3357-7707

FAX : 03-3357-7751

Webでもさまざまな
情報を発信中!



- X
- Facebook ファンページ
- YouTube チャンネル
- note
- Instagram